

# 時間名詞に関する一考察\*

## - 「夜」を中心として -

長原成功\*\*  
narika77@kangwon.ac.kr

### <目次>

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. はじめに               |                      |
| 2. 調査方法               |                      |
| 3. 「夜」を含む時間名詞         |                      |
| 3.1 発話時を含む時間帯を表す時間名詞  |                      |
| 3.2 発話時以前を表わす時間名詞     |                      |
| 3.3 発話時以後を表わす時間名詞     |                      |
| 3.4 不定時を含む時間帯を表わす時間名詞 |                      |
|                       | 3.5 不定時以前を表わす時間名詞    |
|                       | 3.6 循環型の時間名詞         |
|                       | 3.7 事態存続の時間量を表わす時間名詞 |
|                       | 3.8 限定的な時間を表わす時間名詞   |
|                       | 4. おわりに              |

主題語: 時間名詞(Time Related Nouns), 夜(night time), 発話時(Utterance time), 不定時(Indefinite time), 循環型(Cyclic type)

## 1. はじめに

時間を表わす名詞「夜」という言葉は万葉集が初出文献であると言われていたほど非常に古くから使われてきた言葉で、上代では「夜」は「よひ」、「よなか」、「あかとき」と三分されており、「よる」と発音すると「ひる」に対しての暗い時間帯全体をさすのに対して、「よ」はその特定の一部をだけを取り出していう言葉であった。現代では日没から日の出までの間を表わす名詞として使われている。

「夜」という言葉を含む時間を表わす言葉には「夜中」、「真夜中」、「昨夜」、「夜半過ぎ」のように多種多様で、気象庁では一日の時間細分の用語として「夜明け」、「夜のはじめごろ」、「夜」、「夜遅く」を積極的に使っており、また、「夜明け前」という言葉は使わずに「明

\* 本論文は2014年度江原大学校学術研究助成費によって研究したものである。

\*\* 江原大学校 人文大学 日本学科 助教授

1) 小学館国語辞典編集部(1972)『日本国語大辞典第二版 第十三巻』小学館, p.713

け方」を使うようにしていたり、「夜間」という言葉は「夜」に統一し、さらに「夜更けて」という言葉は対象時間が不明確なため用いないことにしている。また「夜半」や「夜半頃」は日常的に使われることが少なくなっているため用いないことにしている。このように「夜」が入る言葉は時代と共に使われたり使われなくなったりしていることが分かる。

本研究では、13巻にわたる『日本国語大辞典』のなかで「夜」の入った時間名詞がどのくらい収録されているのかを調査し、その言葉の持っている時間性から①発話を含む時間帯を表わす時間名詞②発話時以後を表わす時間名詞③不定時を含む時間帯を表わす時間名詞④不定時以前を表わす時間名詞⑤不定時以後を表わす時間名詞⑥循環型の時間名詞⑦事態存続の時間量を表わす時間名詞⑧限定的な時間を表わす時間名詞の八つの下位分類をすることによって「夜」の入った時間名詞にはどのような性質のものが多いのかを考察し、分析する。また、各時間名詞が使われていた年代も同時に調査し、どの時代にどのような時間名詞が使われていたのかについても分析していくことにする。

## 2. 調査方法

本稿では、まずはじめに『日本国語大辞典』13巻に出ている「夜」を含む時間名詞をすべて抽出し、性質別に分類する。分類に際しては仁田(2002)の「時間関係の副詞とその周辺」における分類を参考にした<sup>2)</sup>。ただし、すべての時間名詞が仁田の分類に当てはまるとは限らないため、必要に応じて新に下位分類をするか、もしくは、新しい範疇を設定して分類していくことにする。今回の調査では、例えば五更のように夜の時刻を表わす言葉も数多く存在するが、「夜」を含む時間名詞に限定することにし、辞書上、「名詞」の表記のないものに対しては時間名詞に入れず、また、方言は調査対象外とする。必要に応じて例文を提示するが、その際の例文は青空文庫を利用することにするが、その際の検索エンジンは宋浩の正規表現検索窓口FOR日本語コーパス言語学<sup>3)</sup>を使うこととする<sup>4)</sup>。また、抽出された

2) 仁田は時の表現の下位分類をまず大きく「時の状況成分」と「時間関係の副詞」とに分けた。さらに「時の状況成分」を「発話を含む時間帯」、「発話時以前」、「発話時以後」、「不定時を含む時間帯」、「不定時以前」、「不定時以後」、「直線型」、「循環型」とに分け、「時間関係の副詞」を「事態存続の時間量」、「時間の中における事態の進展」、「起動への時間量」とに下位分類した。

3) <http://www.nihon.co.kr/rxsearch.html>

4) 『日本国語大辞典』にも例文が載せてあるものもあるが、時間関係を明確に表わす例文としては不十分なものもあるため、『青空文庫』を使うことにした。

時間名詞には漢字の上に読み仮名を入れることにするが、それは同一漢字であっても読み方によって意味や時間的性質が変わるからである。

### 3. 「夜」を含む時間名詞

#### 3.1 発話時を含む時間帯を表わす時間名詞

今回の調査で抽出された時間名詞は計9語で、今夜(こんや)、夜今(やこん)、夜来(やらい)、夜去(よさり)、昨夜来(さくやらい)、今夜(こず)、今夜(こんにゃ)、当夜(とうや)、来夜(らいや)であった。今夜の意味を表わす時間名詞には「今夜(こず)」や「今夜(こんにゃ)」があるが、「今夜(こず)」は9世紀の琴歌譜で使われており、「今夜(こんにゃ)」は「こんや」の連声として15世紀の書物に使われている。

時間的性質から見ると、当夜(とうや)では「今夜」の意味と、「その夜」の意味を持っており、「今夜」の意味では「発話時を含む時間帯」、「その夜」の意味では「不定時を含む時間帯」を表わし、来夜(らいや)では「今夜」の意味と、「次の日の夜」の意味を持っているため、「当夜」と同じく「発話時を含む時間帯」と「不定時を含む時間帯」の二つの性質を共に持っていることが分かった。であった。「夜今」はもともと盗人仲間の隠語として「今晚」の意味を表わす言葉であり、20世紀の『香具師奥義書』で使われている。「夜来」はかなり古い言葉で9世紀の『経国集』で使われている。また「夜去」は9世紀末の『竹取物語』で使用されており、「昨夜来」は19世紀の『浮城物語』で使われている。時間的性質では「夜来」と「夜去」は二つの性質を持つ時間名詞で、「夜来」は「昨夜以来」という意味では「発話時を含む時間帯」を表わし、「よごろ」という意味から見ると「幾夜かの夜」と「夜の間」という意味に分かれ、それぞれ「限定的な時間量<sup>5)</sup>」と「循環型<sup>6)</sup>」の性質を持つ時間名詞である。「夜去」は「今夜、今晚」という意味では「発話時を含む時間帯」に分類できるが、「夜、夜中」の意味では「循環型」に分類できる。

5) 「限定的な時間量」とはある事態や状況が存続している時間的な量を表わす。「幾夜かの夜」という言葉は毎夜ではなく、限定された幾日かの夜のみを表わす言葉である。

6) 「循環型」とは一定の間隔において繰り返し現れる時節や時間帯のことをいう。

### 3.2 発話時以前を表わす時間名詞

今回の調査で抽出された発話時以前を表わす時間名詞は計11語で、夜前(やぜん)、夜去(ようさり)、一昨昨夜(いっさくさくや)、一昨夜(いっさくや)、昨夜(きす)、昨夜(きそ)、昨夜(さくや)、先夜(せんや)、前夜(ぜんや)、昨夜(よべ)、昨夜(よんべ)が抽出された。11語の中では昨夜を表わす言葉が9語もあるが、「夜前」という時間名詞は中世あたりから広く使われるようになり、説話や謡曲などで使用され、近世では浮世草子、浄瑠璃、洒落本、咄本、滑稽本などにも見られるようになり、口頭語としても広く一般に使われるようになった。「昨夜(きす)や「昨夜(きそ)」は日本書紀でも使用されていたほど、かなり古くから使われており、また、夜去(ようさり)も中古になって時間を表わす言葉として使われ始めた。また、「昨夜(よべ)・「昨夜(よんべ)」は中古に出た蜻蛉日記や土佐日記などでも使われ、1800年代の書物でも使われているほど年代的に幅の広い言葉だと言える。「先夜」と「前夜」は戦国時代の塵芥や運歩色葉集などで使われ始め、1900年代まで使われている。

時間的性質から見ると、夜去(ようさり)は「昨夜」の意味と、「夜、夕方」の意味を持つため、「昨夜」の意味では「発話時以前」を表わし、「夜、夕方」の意味では「循環型」の性質を持っていることが分かった。また、「先夜」と「前夜」では共に「昨夜」の意味を持っており、「発話時以前」の時間帯を表わし、「前の夜、前の晩」の意味では「不定時以前」の時間帯を表わす。上述した三つの時間名詞は二つの時間的性質を持っている点では「夜前(やぜん)、一昨昨夜(いっさくさくや)、一昨夜(いっさくや)、昨夜(きす)、昨夜(きそ)、昨夜(よべ)、昨夜(よんべ)、昨夜(さくや)」とは異なる性質の時間名詞であることが分かる。

### 3.3 不定時を含む時間帯を表わす時間名詞

今回の調査では計10語の時間名詞が抽出され、一夜(いちや)<sup>7)</sup>、初夜(しょや)、初夜(そや)、即夜(そくや)、当夜(とうや)、同夜(どうや)、一夜(ひとよ)<sup>8)</sup>、一夜(ひとよさ)<sup>9)</sup>、某夜(ぼうや)、来夜(らいや)であった。

7) 「一夜(いちや)」は「一晚、終夜」という意味と、「ある夜」という不定時を表わす意味を持つため「一時的事態存続の時間量」と「不定時を含む時間帯」とに分類した。

8) 「一夜(ひとよ)」は「日暮れから次の日の夜明けまで」を表わす意味と、「ある晩、ある夜」を表わす意味、また、「一晚中」を表わす意味を持っているため、それぞれ「循環型」、「不定時を含む時間帯」、「事態存続の時間量」とに分類した。

9) 一夜(ひとよ)と同一の意味。

不定時を含む時間帯のみを表わす時間名詞は「即夜」、「同夜」、「某夜」で、「即夜」は「すぐその夜」、「同夜」は「その夜」、「某夜」は「ある夜」という意味を表わす。「即夜」は19世紀に出た日本外史や蘭学事始などに使われ、「某夜」は20世紀の書物「夢声半代記」で使われており、近代に出た比較的新しい時間名詞であると言える。また、「一夜(いちや)」と「一夜(ひとよ)」と「一夜(ひとよさ)」は「日暮れから次の日の夜明まで」を表わす意味では共通しているが、「一夜(ひとよ)」と「一夜(ひとよさ)」は万葉集や日本書紀のころから使われている反面、「一夜(いちや)」は源氏物語や平家物語、好色一代男などに使われている11世紀以降に登場した時間名詞である。

時間的性質から見る場合、興味深いのは初夜(しょや)と初夜(そや)で、この二つの時間名詞はもともと仏語としての「現在の午後八時から九時ごろ」を表わす意味と、単に「夕方から夜半まで」を表わす意味、「誕生日の当日」を表わす意味、そして「新婚の夫婦が初めて寝床をともにする夜」を表わす意味と4つの意味を持ち合わせている。「現在の午後八時から九時ごろ」と「夕方から夜半まで」という意味では「循環型」の性質を持っており、「誕生日の当日」の意味では「不定時を含む時間帯」の性質を持ち、「新婚の夫婦が初めて寝床をともにする夜」の意味では「限定的な時間」を表わし、三つの時間的性質を持ち合わせている時間名詞である。

### 3.4 不定時以前を表わす時間名詞

今回の調査で抽出されたのは三語のみで、先夜(せんや)、前前夜(ぜんぜんや)、前夜(ぜんや)であった。

「先夜」は16世紀の『言継卿記』や『塵芥』で使われており、また、「前々夜」は20世紀の徳富蘆花の『思出の記』で使われている。「前夜」は「先夜」と同じく16世紀の運歩色葉集で使用されているが、この結果から「前夜」という言葉が使われはじめてから4世紀後に「前々夜」という言葉が使われるようになったということが分かる。時間的性質から見ると、「前夜」には「先夜」のように「昨夜」という意味を持つが、「大戦前夜すでに、欧州での電波合戦はすさまじかった」のように「大きく時代をかえる事件などの直前」という意味を持ち合わせている点で「先夜」とは異なる。「前々夜」は比較的新しい時間名詞で、20世紀の初めごろから書物で使われ始めた時間名詞である。

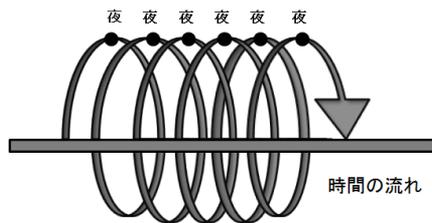
### 3.5 不定時以後を表わす時間名詞

今回の調査で抽出されたのは計七語で、隔夜(かくや)<sup>10)</sup>、次夜(じや)<sup>11)</sup>、明夜(みょうや)<sup>12)</sup>、翌夜(よくや)、一夜掛(いちやがけ)<sup>13)</sup>、一夜(ひとよ)はざめ<sup>14)</sup>、一夜交(ひとよませ)<sup>15)</sup>であった。「隔夜」は12世紀の吾妻鏡で使用されており、「不定時以前を表わす時間名詞」の中ではもっとも古い言葉である。また、「明夜」は16世紀、「一夜掛」は17世紀、「翌夜」は19世紀の書物で使われている。

時間的性質から見ると、「隔夜」や「一夜(ひとよ)はざめ」、「一夜交(ひとよませ)」には「一晩ごろ、一晩おき」という意味を持っており、これらの意味から「循環型」の性質と、また、「一晩明けた次の朝」という意味から「不定時以後」の時間を表わす性質を持ち合わせた時間名詞であることが分かった。

### 3.6 循環型の時間名詞

「循環型」の時間名詞は「1988年1月28日」のように一直線に伸びる時間軸上に位置づけられる時間帯、つまり「直線型」と呼ばれる時間名詞とは違い、一定の時間が過ぎれば繰り返してやってくる、例えば「夜」や「正月」、「秋」などのように、過去から未来に一直線に向かっていく時間の軸に対し、螺旋状に回転しながら再び同時期が訪れる時点や時期を表わす。これを絵に表すと以下のようなになる。



〈絵1〉時間の流れと「夜」との関係

- 10) 「隔夜」には「一晩ごと」、「一晩おき」という意味もあるが、「一晩あけた次の朝」という意味もあるため不定時以前を表わす時間名詞にも分類した。
- 11) 翌日の夜の意味。
- 12) 翌日の夜の意味。
- 13) その夜から翌朝にかけての間を表わす。
- 14) 隔夜の意味。
- 15) 隔夜の意味。

今回の調査で抽出された「循環型」の時間名詞は計134語で、「夜」が入る時間名詞の中でもっとも多く抽出された。抽出された時間名詞は以下の通りである。

<表1>循環型の時間名詞

<p>夜陰(やいん)、夜中(やうち)、夜間(やかん)、夜更(やこう)、夜初(やしよ)、夜深(やしん)、夜中(やちゅう)、夜白(やはく)、夜半(やはん)、夜分(やぶん)、夜夜(やや)、夜来(やらい)、夜闌(やらん)、夜(よ)、夜(ゆ)、夜明(よあけ)、夜明方(よあけがた)、夜明前(よあけまえ)、夜方(ようさつかた)、夜去・夕去(ようさり)、夜去方(ようさしかた)、夜去方(ようさりつかた)、夜間(ようま)、夜降(よぐたち)<sup>16)</sup>、夜毎(よごと)、夜籠・夜隠(よごもり)<sup>17)</sup>、夜頃・夜来(よごろ)<sup>18)</sup>、夜(よ)さ<sup>19)</sup>、夜寒(よさむ)<sup>20)</sup>、夜(よ)さら<sup>21)</sup>、夜去(よさり)、夜去方(よさりがた)、夜去方(よさりつかた)<sup>22)</sup>、夜去夜中(よさりよなか)<sup>23)</sup>、夜中(よなか)、夜長(よなが)<sup>24)</sup>、夜中暁(よなかあかつき)<sup>25)</sup>、夜半(よなかば)、夜中前(よなかまえ)、夜中八(よなかやつ)<sup>26)</sup>、夜夜(よなよな)、夜日(よひ)<sup>27)</sup>、夜更・夜深(よふけ)、夜更方・夜深方(よふけがた)、夜更早更(よふけさふけ)<sup>28)</sup>、夜間(よま)、夜夜(よよ)、夜(よ)ら<sup>29)</sup>、夜(よる)、夜昼(よるひる)、夜夜中(よるよなか)、夜夜(よるよる)<sup>30)</sup>、夜・夜半(よわ)、夜間(よんま)、浅夜(あさよ)、朝夜(あさよさ)、新夜(あらたよ)<sup>31)</sup>、乙夜(いつや)、乙夜(おつや)<sup>32)</sup>、隔夜(かくや)、夏夜(かや)、佳夜(かや)<sup>33)</sup>、甲夜(こうや)<sup>34)</sup>、五夜(ごや)<sup>35)</sup>、午夜(ごや)<sup>36)</sup>、後夜(ごや)<sup>37)</sup>、昏夜(こんや)<sup>38)</sup>、小夜(さよ)、三</p>
--

- 16) 夜更けの意味。
- 17) 深夜、夜更けの意味で、万葉集でも使われている。
- 18) このところ毎晩、夜の間の意味。
- 19) 「よさり(夜去)」の変化した語である。
- 20) 晩秋のころ、夜半に寒さを覚えること。また、その時節を表わす。
- 21) 夜や夜中の意味。
- 22) 夜去方(よさりがた)、夜去方(よさりつかた)は夜になる時分や夕方を表わす。
- 23) 真夜中、夜更けの意味。
- 24) 夜が長い頃の意味。
- 25) 夜中、暁、日夜の意味。
- 26) 午前2時頃の意味。
- 27) 夜と昼の意味。
- 28) 「夜更早更(よふけさふけ)」の「さふけ」は夜更に語呂を合わせて意味を強めたものである。
- 29) 夜らの「ら」は接尾語である。
- 30) 「夜夜(よるよる)」には「毎夜」という意味と「二晩以上の夜」という意味があるため、「循環型」と「限定的な期間」とに分類した。
- 31) 毎夜の意味。
- 32) 昔、中国で夜を甲・乙・丙・丁・戊(ぼ)の五つに分けた。現在の午後九時頃から一一時頃を表わす。
- 33) 「佳夜」は「良夜」、つまり「深夜」という意味を表わす時間名詞である。
- 34) 古く中国で、夜、すなわち日没から日の出までを五等分して甲、乙、丙、丁、戊(ぼ)の五つとした、その第一。現在の時刻で、春は午後六時三〇分頃から八時三〇分すぎまで、夏は午後七時四〇分頃から九時すぎまで、秋は午後六時すぎから八時二〇分頃まで、冬は午後五時すぎから七時四〇分頃までを表わす。
- 35) およそ現在の午前3時から午前5時、または午前4時から午前6時ころにあたる時間帯。

五夜(さんごや)、三夜(さんや)<sup>39)</sup>、残夜(ざんや)<sup>40)</sup>、子夜(しや)<sup>41)</sup>、十五夜(じゅうごや)、十三夜(じゅうさんや)、十七夜(じゅうしちや)、十四夜(じゅうしや)、秋夜(しゅうや)、十六夜(じゅうろくや)、春夜(しゅんや)、初夜(しよや)、初夜(そや)<sup>42)</sup>、除夜(じよや)、晨夜(しんや)<sup>43)</sup>、深夜(しんや)、聖夜(せいや)、中夜(ちゅうや)<sup>44)</sup>、昼夜(ちゅうや)<sup>45)</sup>、朝昼暮夜(ちょうちゅうぼや)<sup>46)</sup>、朝朝夜夜(ちょうちょうやや)、丁夜(ていや)<sup>47)</sup>、十日夜(とおかや)、十日夜(とうかんや)<sup>48)</sup>、冬夜(とうや)、灯夜(とうや)<sup>49)</sup>、二十三夜(にじゅうさんや)<sup>50)</sup>、二十六夜(にじゅうろくや)<sup>51)</sup>、日日夜夜(にちにちやや)<sup>52)</sup>、日夜(にちや)、薄夜(はくや)<sup>53)</sup>、八月十五夜(はちがつじゅうごや)、八十八夜(はちじゅうはちや)<sup>54)</sup>、八月十五夜(はづきじゅうごや)、初夜(はつよ)<sup>55)</sup>、半夜(はんや)<sup>56)</sup>、一夜(ひとよ)、一夜(ひとよさ)、一夜(ひとよ)はざめ、一夜交(ひとよませ)、昼夜(ひるよる)、文月夜(ふみづきよ)<sup>57)</sup>、冬夜(ふゆよ)、丙夜(へいや)<sup>58)</sup>、戊夜(ぼや)<sup>59)</sup>、暮夜(ぼや)<sup>60)</sup>、毎夜(まいや)、毎夜(まいよ)、毎夜(まいよさ)、真夜(まよる)<sup>61)</sup>、夜夜(やや)<sup>62)</sup>、夜・夜半(よわ)<sup>63)</sup>、良夜(りょうや)<sup>64)</sup>、累夜(るいや)<sup>65)</sup>、連夜(れんや)、一夜正月(いちやしょうがつ)<sup>66)</sup>、十日夜(とおかんや)<sup>67)</sup>、小夜中(さよなか)、小夜更方(さよふげがた)<sup>68)</sup>、初夜半(しよやはん)<sup>69)</sup>、深夜帯(しんやたい)、七夜月(ななよづき)<sup>70)</sup>、如法夜半(にょうほうやはん)<sup>71)</sup>、日毎夜毎(ひごとよごと)、真夜中(まよなか)、夜景(やけい)<sup>72)</sup>

- 36) 夜半、真夜中の12時を意味する。
- 37) 夜半から朝までの間を意味する。
- 38) 日が暮れて、夜になるころを表わす。
- 39) 「月の第三日目の夜」と「新婚三日目の夜」の二つの意味を持つため一つは循環型、もう一つは限定的な日を表わす時間名詞に入れて分類する。
- 40) 明け方近い頃の意味。
- 41) 現在の夜の一二時頃を表わす。
- 42) 「初夜(しよや)」、「初夜(そや)」は、仏語として「現在の午後八時から九時ごろ」を表わす場合と、単に「夕方から夜半まで」を表わす場合がある。
- 43) 「晨夜(しんや)」は「朝と夜」、「朝はやくから晩おそくまで」という二つの意味を持っているため、「循環型」と「事態存続の時間量」とに分類した。
- 44) 「中夜(ちゅうや)」は「夜中」の意味と、「亥の刻(午後九時)から丑(うし)の刻(午前三時)までの間」の意味を持っている。
- 45) 「昼夜(ちゅうや)」は「昼と夜」という循環性を持つ意味と、「日夜」という「事態存続の時間量」を表わす意味とを持つ。
- 46) 朝と昼と夕と夜、また、昼間と夜間をいう意味を持つ。
- 47) 現在の午前一時ごろから午前三時ごろを表わす。
- 48) 10月10日の夜を表わす。
- 49) 中国で、古来、陰暦一月一五日に行なわれる元宵節の夜を表わす。
- 50) 陰暦の23日の夜を表わす。
- 51) 陰暦、1月と7月の26日を表わす。
- 52) 毎日毎晩の意味。
- 53) 明け方や二の暮れかかる頃を表わす。
- 54) 立春から88日目の日を表わす。
- 55) その季節になって初めての夜を表わす。
- 56) 「半夜(はんや)」は「真夜中」の意味と、「一夜の半分」という意味を持っているため、「循環型」と「事態存続の時間量」とに分類した。
- 57) 陰暦7月の夜の意味。

次に各時間名詞が使用されていた書物の年代別整理を試みることにする。結果は以下の通りである。

〈表2〉循環型時間名詞の使用年代別分類

年代	時間名詞〔書物名〕
7世紀	戌夜(ぼや)[南史梁武帝紀]、累夜(るいや)[晉書荀晞伝]
8世紀	夜(よ)[古事記]、夜(ゆ)[万葉集]、夜去(ようさり)[催馬楽]、夜降(よぐたち)[万葉集]、夜毎(よごと)[万葉集]、夜籠・夜隠(よごもり)[万葉集]、夜中(よなか)[日本書紀]、夜夜(よなよな)[日本書紀]、夜(よ)ら[万葉集]、夜(よ)る[万葉集]、夜昼(よるひる)[続日本紀]、新夜(あらたよ)[万葉集]、小夜(さよ)[万葉集]、日日夜夜(にちにちやや)[家伝]、日夜(にちや)[続日本紀神亀四年]、一夜(ひとよ)[日本書紀]、昼夜(ひるよる)[日本書紀]、小夜中(さよなか)[万葉集]
9世紀	夜陰(やいん)[経国集]、夜夜(やや)[経国集]、夜来(やらい)[経国集]、夏夜(かや)[新撰万葉集]、甲夜(こうや)[凌雲集]、五夜(ごや)[文華秀麗集]、後夜(ごや)[靈異記]、三五夜(さんごや)[凌雲集]、秋夜(しゅうや)[凌雲集]、春夜(しゅんや)[文華秀麗集]、初夜(しょや)[靈異記]、除夜(じょや)[経国集]、中夜(ちゅうや)[顕戒論]、夜夜(やや)[経国集]、連夜(れんや)[新撰万葉集]

- 58) 現在の午後一時から午前一時頃にあたる。  
 59) 現在の午前三時から五時ごろを表わす。  
 60) 夜に入ったとき、または夜を表わす。  
 61) 真夜中の意味。  
 62) 毎夜の意味。  
 63) よる、よなか、夜間などの意味を表わす。  
 64) 「良夜(りょうや)」は「夜更け、深夜」の意味と、「月の明るく美しい夜」の意味を持っているため、「循環型」と「限定的な日を表わす時間名詞」とに分類した。  
 65) 連夜の意味で、「引き続いて毎夜」という意味を持っているため、「循環型」に分類した。  
 66) 一夜正月(いちやししょうがつ)は「旧暦二月一日の俗称」のことを指している。  
 67) 10月10日の夜の意味。  
 68) 夜の更けることを表わす。  
 69) 午後9時頃を表わす。  
 70) 「七夜月(ななよづき)」は陰暦七月の異称のことを指す。  
 71) まったくの夜中の意味。  
 72) 「夜景(やけい)」は「夜の景色」の意味があるが、それ以外に「夜のけいはいが感じられる頃、夜中」という意味を持っている。

年代	時間名詞〔書物名〕
10世紀	夜更(やこう)[菅家文草]、夜分(やぶん)[菅家文草]、夜方(ようさつかた)[土左日記]、夜去方(ようさりかた)[宇津保物語]、夜去方(ようさりつかた)[多武峰少将物語]、夜寒(よさむ)[宇津保物語]、夜去(よさり)[竹取物語]、夜去方(よさりがた)[蜻蛉日記]、夜去方(よさりつかた)[宇津保物語]、夜長(よなが)[宇津保物語]、夜中暁(よなかあかつき)[宇津保物語]、夜夜(よるよる)[宇津保物語]、夜半(よわ)[古今和歌集]、十五夜(じゅうごや)[宇津保物語]、初夜(そや)[蜻蛉日記]、晨夜(しんや)[菅家文草]、八月十五夜(はちがつじゅうごや)[大和物語]、半夜(はんや)[菅家文草]、夜半(よわ)[古今和歌集]、小夜更方(さよふけがた)[宇津保物語]
11世紀	夜明方(よあけがた)[源氏物語]、夜頃・夜来(よごろ)[栄花物語]、夜夜中(よるよなか)[栄花物語]、子夜(しや)[本朝文粹]、深夜(しんや)[和漢朗詠集]、丙夜(へいや)[新唐書循吏伝]
12世紀	夜中(やちゅう)[明月記]、夜夜(よよ)[千載和歌集]、隔夜(かくや)[吾妻鏡]、十三夜(じゅうさんや)[本朝無題詩]、十四夜(じゅうしや)[雅兼集]、昼夜(ちゅうや)[色葉字類抄]、冬夜(とうや)[本朝無題詩]、初夜(はつよ)[堀河百首]、夜景(やけい)[兵範記保元元年]
13世紀	夜間(やかん)[正法眼蔵]、夜明(よあけ)[宇治拾遺物語]、夜半(よなかば)[高野本平家物語]、夜更方・夜深方(よふけがた)[平治物語]、夜間(よま)[名語記]、夜間(よんま)[名語記]、如法夜半(にょほうやはん)[平家物語]
14世紀	夜(よ)さ[虎寛本狂言・鞆猿]、残夜(ざんや)[太平記]
15世紀	夜日(よひ)[幸若・和田宴]
16世紀	夜白(やはく)[島津家文書]、夜半(やはん)[島津家文書]、夜中前(よなかまえ)[浮世草子・好色一代男]、午夜(ごや)[落葉集]
17世紀	夜更・夜深(よふけ)[評判記・野郎にぎりこぶし]、朝夜(あさよさ)[俳諧・桃舐集]、昏夜(こんや)[仮名草子・伽婢子]、十七夜(じゅうしちや)[俳諧・犬子集]、十六夜(じゅうろくや)[俳諧・犬子集]、二十三夜(にじゅうさんや)[説経節・説経荳]、八十八夜(はちじゅうはちや)[浮世草子・懷硯]、一夜(ひとよさ)[俳諧・独吟一日千句]、文月夜(ふみづきよ)[俳諧・鷹筑波集]、冬夜(ふゆよ)[俳諧・続虚栗]、毎夜(まいや)[日葡辞書]、毎夜(まいよさ)[俳諧・誹諧曾我]、真夜(まよる)[俳諧・大海集]、真夜中(まよなか)[俳諧・山の井]
18世紀	夜初(やしよ)[浄瑠璃・関取二代勝負附]、夜明前(よあけまえ)[俳諧・木曾の谷]、夜間(よま)[洒落本・新吾左出放題旨牛]、夜(よ)さら[雑俳・俳諧]、夜更早更(よふけさふけ)[洒落本・見通三世相]、三夜(さんや)[洒落本・売花新駅]、丁夜(ていや)[隨筆・孔雀樓筆記]、二十六夜(にじゅうろくや)[洒落本・売花新駅]、良夜(りょうや)[書言字考節用集]、一夜正月(いちやししょうがつ)[俳諧・俳諧二見貝]、七夜月(ななよづき)[莫伝抄]

年代	時間名詞[書物名]
19世紀	夜中(やうち)[人情本・貞操婦女八賢誌]、夜深(やしん)[広益熟字典]、夜闌(やらん)[米欧回覧実記]、夜去夜中(よさりよなか)[真景累ヶ淵]、朝昼暮夜(ちょうちゅうぼや)[米欧回覧実記]、朝朝夜夜(ちょうちょうやや)[信仰之道]、薄夜(はくや)[花柳春話]、暮夜(ぼや)[鴨東四時雑詞]、初夜半(しょやはん)[滑稽本・穴さがし心の内そと]、日毎夜毎(ひごとよごと)[当世書生氣質]、一夜(ひとよ)はざめ[浮雲]
20世紀	浅夜(あさよ)[林泉集]、聖夜(せいや)[火口壁]、灯夜(とうや)[首が落ちた話]
年代不明	乙夜(いつや)、乙夜(おつや)、佳夜(かや)、八月十五夜(はづきじゅうごや)、毎夜(まいよ)、十日夜(とおかんや)、深夜帯(しんやたい)、一夜交(ひとよませ)

「夜」の入った時間名詞のうち、もっとも古いとされる「戌夜」と「累夜」という時間名詞は共に中国の書物から始まったとされ、後に日本に入ってきた時間名詞ではないかと推測される。また、もっとも最近の時間名詞としては20世紀に使われるようになった「浅夜」、「聖夜」、「灯夜」で、「浅夜」は「灯のなかを遠く疲れて行くならん浅夜の辻の裸馬(らば)の一行」のように「夜の浅い時分、または、夜になってまもない頃」という意味で使われている。「聖夜」は『火口壁』の中で「聖夜来るペンキ屋ペンキだらけなり」と、クリスマスイブを指す意味として使われ、また、「灯夜」は1918年芥川龍之介が「その次には妙なもの空をのたくって来た。よく見ると、灯夜に街をかついで歩く、あの大きな龍灯(りゅうとう)である」のように、陰暦の1月15日を表わす意味として使っている。

次に「漢数字+夜(や)」の形が数多く見られるが、もっとも古い「漢数字+夜(や)」の形では「三五夜」で、「陰暦一五日の夜、特に八月十五日の夜」の意味として9世紀に使われている。その後、10世紀では「十五夜」と「八月十五夜」が現れだし、12世紀では「十三夜」、「十四夜」、17世紀では「十六夜」、「十七夜」、「二十三夜」、「八十八夜」、18世紀では「二十六夜」が現れだしている。

この節では「循環型」の時間名詞のみを扱ったが、同じ時間名詞でありながら「循環型」以外の性質を持つ場合、意味によって使われていた時代が違っているということが分かった。それについては違う節で言及することにする。

次に抽出した循環型時間名詞が持っている時間的性質を分析してさらに時間性による下位分類を試みる。時間性の違いというのは、例えば、「朝、昼、夜」などの時間名詞は一日ごとに必ず来る性質を持っているが、「月始め、月末」などの時間名詞は毎月やってくるという性質を持っている。また、「春、夏、秋、冬」などの時間名詞は一年を通して一度来る時期を表わす時間名詞である。そこで、今回の循環型時間名詞をさらに「日循環型」と「月循環型」さら

に「年循環型」に分類していくことにする。分類していく中で、範疇を新に増やす必要がある場合は時間的性質に応じて増やすことにする。分類した結果は以下の通りである。

<表3>循環型時間名詞の性質別下位分類

時間の性質別 分類	時間名詞
日循環型	夜陰(やいん)、夜中(やうち)、夜間(やかん)、夜更(やこう)、夜初(やしよ)、夜深(やしん)、夜中(やちゅう)、夜白(やはく)、夜半(やはん)、夜分(やぶん)、夜夜(やや)、夜来(やらい)、夜闌(やらん)、夜(よ)、夜(ゆ)、夜明(よあけ)、夜明方(よあけがた)、夜明前(よあけまえ)、夜方(ようさつかた)、夜方(ようさつかた)、夜去方(ようさりかた)、夜去方(ようさりつかた)、夜間(ようま)、夜降(よぐたち)、夜毎(よごと)、夜籠・夜隠(よごもり)、夜頃・夜来(よごろ)、夜(よ)さ、夜(よ)さら、夜去(よさり)、夜去(よさり)、夜去方(よさりがた)、夜去方(よさりつかた)、夜去夜中(よさりよなか)、夜中(よなか)、夜中暁(よなかあかつき)、夜半(よなかば)、夜中前(よなかもえ)、夜中八(よなかやつ)、夜夜(よなよな)、夜日(よひ)、夜更・夜深(よふけ)、夜更方・夜深方(よふけがた)、夜更早更(よふけさふけ)、夜間(よま)、夜夜(よよ)、夜(よ)ら、夜(よ)る、夜昼(よるひる)、夜夜中(よるよなか)、夜夜(よるよる)、夜・夜半(よわ)、夜間(よんま)、浅夜(あさよ)、朝夜(あさよさ)、新夜(あらたよ)、乙夜(いつや)、乙夜(おつや)、隔夜(かくや)、佳夜(かや)、甲夜(こうや)、五夜(ごや)、午夜(ごや)、後夜(ごや)、昏夜(こんや)、小夜(さよ)、残夜(ざんや)、子夜(しや)、初夜(しよや)、初夜(そや)、晨夜(しんや)、深夜(しんや)、中夜(ちゅうや)、昼夜(ちゅうや)、朝昼暮夜(ちようちようぼや)、朝朝夜夜(ちようちようやや)、丁夜(ていや)、日日夜夜(にちにちやや)、日夜(にちや)、薄夜(はくや)、半夜(はんや)、一夜(ひとよ)、一夜(ひとよ)、昼夜(ひるよる)、丙夜(へいや)、戊夜(ぼや)、暮夜(ぼや)、毎夜(まいや)、毎夜(まいよ)、毎夜(まいよさ)、真夜(まよる)、夜夜(やや)、夜半(よわ)、良夜(りょうや)、累夜(るいや)、連夜(れんや)、小夜中(さよなか)、小夜更方(さよふけがた)、初夜半(しよやはん)、深夜帯(しんやたい)、如法夜半(によほうやはん)、日毎夜毎(ひごとよごと)、真夜中(まよなか)、夜景(やけい)、一夜(ひとよ)はざめ、一夜交(ひとよまぜ)
年循環型	夜寒(よさむ)、八十八夜(はちじゅうはちや)、一夜正月(いちやしょうがつ)、七夜月(ななよづき)
月循環型 + 日循環型	三夜(さんや)、二十三夜(にじゅうさんや)、三五夜(さんごや)、十五夜(じゅうごや)、十七夜(じゅうしちや)、十四夜(じゅうしや)、十六夜(じゅうろくや)
季節循環型 + 日循環型	初夜(はつよ)
年循環型 + 日循環型	夏夜(かや) <sup>73)</sup> 、秋夜(しゅうや)、春夜(しゅんや)、除夜(じよや)、聖夜(せいや)、冬夜(とうや)、灯夜(とうや)、八月十五夜(はちがつじゅうごや)、八月十五夜(はづきじゅうごや)、文月夜(ふみづきよ)、冬夜(ふゆよ)、十日夜(とおかんや)、夜長(よなが) <sup>74)</sup> 、十三夜(じゅうさんや)、二十六夜(にじゅうろくや)、

分類した結果、「日循環型」は計107で、もっとも多く現れた結果となった。また、「年循環型+日循環型」が14、「月循環型+日循環型」が7、年循環型が4、「季節循環型+日循環型」が1という結果であった。また、今回の調査では「月循環型」や「月循環型+年循環型」に当てはまる時間名詞はなかった。

今回抽出された循環型時間名詞はほとんどが一定のある時間帯を指す、いわば時間軸上において螺旋状に渦巻く一部の線として表わされるものが多かったが、直線的な時間の流れに対して点として表わされる時間名詞もある。例えば、「子夜」という時間名詞は夜の12時頃のみを指していて時間の幅を持っておらず、「午夜」も真夜中の12時ごろを指し、また、「夜中八」は午前2時頃を指しているため時間の幅を有していない。つまり、一日24時間を時間の線と考える場合、上記の時間名詞は点として考えることができる。さらに、時間軸上でいくつかの点で表わされる時間名詞、すなわち「二十六夜」の場合は陰暦の1月26日と7月26日を表わすが、一年という直線的な時間軸上では二日のみであるため点が二つとして表わせる。また、「夜日」、「夜昼」、「朝夜」、「昼夜」、「昼夜」などは一日の時間帯のうち二つの時間帯を重ね持っている時間名詞で、例えば「昼夜」の場合は昼の時間帯と夜の時間帯の両方を持っているため、一日の時間の流れから見ると時間軸上、線が二つあることになる。また、「隔夜」や「夜頃」などは「毎晩」という意味を持っており、一日の流れでは夜という一つの時間帯のみを持っているが、毎日の時間の流れからみると連続的な夜の時間帯を示すため、線が一定の間隔をおいて連続的に描かれる形となる。このように循環型の時間名詞であっても、一日に一度繰り返される時間帯もあれば、一月や一年に一度繰り返される時間帯もあり、さらに一日に一度繰り返させるものであったとしても、それが時間帯ではなく、点として表わされる時間を表わす時間名詞もあるということが分かった。

### 3.7 事態存続の時間量を表わす時間名詞

「事態存続の時間量を表わす時間名詞」とは、当該事態がどのぐらいの時間量を占めて持続・存続するのかを表わすもので、たとえば、「長年の間」であれば、存続量が大きい時間名詞となり、「少しの間」であれば、存続量が小さい時間名詞となる。今回の調査で抽出された時間名詞は計45語で、三番目に多い結果となった。抽出された時間名詞は以下の通りである。

73) 年に一度しか来ない「夏」の「夜」を表わすため「年循環型+日循環型」とした。

74) 「夜長」は夜が長い頃、特に秋の夜を指すため「年循環型」に入れた。

〈表4〉事態存続の時間量を表わす時間名詞

夜明(よあ)かし<sup>75</sup>)、夜夜一夜(よがなよっぴて)、夜夜一夜(よがなよっぴと)、夜夜一夜(よがなよひと)、夜夜一夜(よがなよひとよ)、夜夜一夜(よがよっぴて)、夜夜一夜(よがよっぴと)、夜越(よごし)<sup>76</sup>)、夜中(よじゅう)<sup>77</sup>)、夜(よ)すが、夜(よ)すがら<sup>78</sup>)、夜一夜(よっぴてえ)、夜一夜(よっぴと)、夜一夜(よっぴとい)、夜一夜(よっぴとよ)、夜一夜(よひとい)、夜一夜(よひとよ)、夜一夜(よひとよさ)、夜一夜(よふとえ)、夜通(よどおし)、夜渡(よわたし)<sup>79</sup>)、一日一夜(いちじついちや)、一日一夜(いちにちいちや)、一日夜(いちにちや)<sup>80</sup>)、一昼一夜(いっちゅういちや)<sup>81</sup>)、一昼夜(いっちゅうや)、朝昏昼夜(ちょうこんちゅうや)<sup>82</sup>)、一夜(いちや)、一夜(おおよすがら)<sup>83</sup>)、竟夜(きょうや)<sup>84</sup>)、夙夜(しゅくや)、夙夜(しゅくや)、終夜(しゅうや)、晨夜(しんや)<sup>85</sup>)、尽夜(じんや)<sup>86</sup>)、全夜(ぜんや)<sup>87</sup>)、足夜(たりよ)<sup>88</sup>)、通夜(つうや)<sup>89</sup>)、徹夜(てつや)<sup>90</sup>)、一日一夜(ひとひとよ)<sup>91</sup>)、一夜(ひとよ)、一夜(ひとよさ)、全夜(またよ)<sup>92</sup>)、通夜(もすめ)<sup>93</sup>)、小夜(さよ)すがら<sup>94</sup>)

次に各時間名詞が使用されていた書物の年代別整理を試みることにする。結果は以下の通りである。

- 75) 「夜明かし」は現代語では「夜明かしする」という使い方で、一晩中眠らないで、朝を向かえる意味であるが、江戸時代の随筆「独寝」では「夜通し」の意味で使われている。
- 76) 夜通しの意味。
- 77) 「夜中(よじゅう)」は「夜中(よなか)」とは違い「夜通し、一晩中」という意味を表わす。
- 78) 「夜すが、夜すがら」は「夜通し、一晩中」という意味を表わす。
- 79) 夜通し、一晩中の意味。
- 80) 一日一夜(いちじついちや)、一日一夜(いちにちいちや)、一日夜(いちにちや)は「一昼夜」という意味を表わし、「一昼夜」は新明解国語辞典に「まる一日、24時間」と書かれているため「事態存続の時間量を表わす時間名詞」に分類した。
- 81) 一昼夜と同一の意味。
- 82) 一昼夜、まる一日の意味。
- 83) 一晩中の意味。
- 84) 一晩中、夜通しの意味。
- 85) 「晨夜(しんや)」は「夙夜(しゅくや)」と同様の意味を持つことから「事態存続の時間量を表わす時間名詞」に入れた。
- 86) 一晩中の意味。
- 87) 一晩中の意味。
- 88) 「足夜(たりよ)」は「夜通し」と「満ち足りた夜」の二つの意味を持っているため、「事態存続の時間量」と「限定的な日を表わす時間名詞」とに分類した。
- 89) 夜通し、一晩中の意味。
- 90) 「徹夜(てつや)」には「夜通し、一晩中」という意味を含んでいる。
- 91) まるまる一日中の意味。
- 92) 一晩中の意味。
- 93) 一夜通しの意味。
- 94) 「夜通し、一晩中」という意味を表わす。

〈表5〉事態存続の時間量を表わす時間名詞の使用年代別分類

年代	時間名詞[書物名]
7世紀	なし
8世紀	夜明(よあ)かし[万葉集]、夜(よ)すがら[万葉集]、夜渡(よわたし)[万葉集]、終夜(しゅうや)[家伝]、足夜(たりよ)[万葉集]、一夜(ひとよ)[日本書紀]、全夜(またよ)[万葉集]
9世紀	一日一夜(いちにちいちや)[顕戒論]、一夜(おおよすがら)[古語拾遺]、通夜(つうや)[凌雲集]、通夜(よもすめ)[東大寺諷誦文平安初期点]、小夜(さよ)すがら[続日本後紀]
10世紀	夜一夜(よひとよ)[古今和歌集]、一日夜(いちにちや)[往生要集]、晨夜(しんや)[菅家文草]、一日一夜(ひとひとよ)[大和物語]
11世紀	一夜(いちや)[源氏物語]、竟夜(きょうや)[参天台五台山記]
12世紀	夜越(よごし)[散木奇歌集]、夙夜(しくや)[色葉字類抄]、夙夜(しょくや)[色葉字類抄]
13世紀	なし
14世紀	なし
15世紀	夜一夜(よっぴとい)[杜詩続翠抄]、夜一夜(よっぴとよ)[杜詩続翠抄]
16世紀	夜一夜(よひとい)[中華若木詩抄]、一日一夜(いちじついちや)[サントスの御作業]
17世紀	夜中(よじゅう)[咄本・軽口露がはなし]、夜(よ)すが[咄本・正直咄大鑑]、夜一夜(よひとよさ)[俳諧・炭俵]、夜通(よどおし)[徳川禁令考前集・第六・巻五二]、一夜(ひとよさ)[俳諧・炭俵]
18世紀	夜夜一夜(よがなよっぴと)[浄瑠璃・一谷嫩軍記]、夜夜一夜(よがなよひと)[浄瑠璃・難波丸金鶏]、夜夜一夜(よがなよひとよ)[洒落本・古今三通伝]、夜夜一夜(よがよっぴと)[浄瑠璃・行平磯剛松]、夜一夜(よっぴてえ)[雑俳・柳多留一四]、夜一夜(よっぴと)[浄瑠璃・京羽二重娘気質]、夜一夜(よふとえ)[洒落本・道中粹語録]、尽夜(じんや)[浮世草子・色縮緬百人後家]
19世紀	夜夜一夜(よがなよっぴて)[滑稽本・浮世風呂]、夜夜一夜(よがよっぴて)[洒落本・青楼快談玉野語言]、一昼夜(いっちゅうや)[読本・椿説弓張月]、朝昏昼夜(ちょうこんちゅうや)[歌舞伎・景清]、徹夜(てつや)[和英語林集成(初版)]
20世紀	なし
年代不明	一昼一夜(いっちゅういちや)、全夜(ぜんや)

万葉集で使用されている「夜明かし」は現在でも日常会話で使われている言葉であるが、「夜明かしする」という意味では20世紀に入ってから使われるようになり、万葉集で使

用された「夜明かし」は「夜通し」の意味であった。また、「終夜」も「終夜運轉」のように現在でもよく使われている言葉であるが、8世紀ごろから現在と同じ意味で使われ始めていた、かなり歴史の深い時間名詞である。反対に比較的歴史の浅い時間名詞のうち現在でもよく使われている「一昼夜」は「為朝は稚おさなきより、水行(ふなち)に調煉し給へば、浪(なみ)をも風をも物ともせず、只(ただ)一昼夜に乗著(のりつけ)給へり」の例文からも分かるように、「まる一日」という現在の意味と同一の意味で使われている。「徹夜」も19世紀の書物から使われている時間名詞で、「和英語林集成」の中で「Tetszyawo(テツヤヲ)シテ ホンヲ ヨム」のように記載されている。

表5を見ると、同一の漢字が使われているにもかかわらず、発音によって記載されている年代に差を見せる「夜夜一夜」や「夜一夜」と書く時間名詞がある。「夜夜一夜(よながよっぴて)」、「夜夜一夜(よがなよっぴと)」、「夜夜一夜(よがなよひと)」、「夜夜一夜(よがなよひとよ)」、「夜夜一夜(よがよっぴて)」、「夜夜一夜(よがよっぴと)」は「夜通し、一晚中」という意味を表わし、主に18世紀から19世紀ごろに書かれた浮世風呂や浄瑠璃、洒落本などで使われている。また、「夜一夜(よっぴてえ)」、「夜一夜(よっぴと)」、「夜一夜(よっぴとい)」、「夜一夜(よっぴとよ)」、「夜一夜(よひとい)」、「夜一夜(よひとよ)」、「夜一夜(よひとよさ)」、「夜一夜(よふとえ)」は「夜通し、一晚中」という意味を表わす時間名詞であるが、「夜一夜(よっぴてえ)」、「夜一夜(よっぴと)」、「夜一夜(よっぴとい)」、「夜一夜(よっぴとよ)」、「夜一夜(よひとよさ)」、「夜一夜(よふとえ)」は15世紀代から19世紀代にかけて雑俳や洒落本などで使われており、「夜一夜(よひとい)」、「夜一夜(よひとよ)」は古今和歌集、大和物語、宇津保物語など10世紀に使われており、使われていた年代が大きく違っている。

今回の調査で事態存続の時間量を表わす時間名詞は「循環型」の時間名詞とは違い、7世紀から使用されていたものは一つもなく、反対に20世紀に使用され始めた比較的新しいものもなかった。また、13、14世紀は一つも現れていないことが分かる。

次に、抽出した「事態存続の時間量を表わす時間名詞」が持っている時間的性質を分析してさらに時間性による下位分類を行う。

〈表6〉事態存続の時間量を表わす時間名詞の性質別下位分類

時間量	時間名詞
夜通し、 一晚中	夜明(よあ)かし、夜夜一夜(よがなよっぴて)、夜夜一夜(よがなよっぴと)、夜夜一夜(よがなよひと)、夜夜一夜(よがなよひとよ)、夜夜一夜(よがよっぴて)、夜夜一夜(よがよっぴと)、夜越(よごし)、夜中(よじゅう)、夜(よ)すが、夜(よ)すがら、夜一夜(よっぴてえ)、夜一夜(よっぴと)、夜一夜(よっぴとい)、夜一夜(よっぴとよ)、夜一夜(よひとい)、夜一夜(よひとよ)、夜一夜(よひとよさ)、夜一夜(よふとえ)、夜通(よどおし)、夜渡(よわたし)、一夜(いちや)、一夜(おおよすがら)、竟夜(きょうや)、終夜(しゅうや)、尽夜(じんや)、全夜(ぜんや)、足夜(たりよ)、通夜(つうや)、徹夜(てつや)、一夜(ひとよ)、一夜(ひとよさ)、全夜(またよ)、通夜(よもすめ)、小夜(さよ)すがら
一日、 24時間	一日一夜(いちじついちや)、一日一夜(いちにちいちや)、一日夜(いちにちや)、一昼一夜(いちちゅういちや)、一昼夜(いちちゅうや)、朝昏昼夜(ちょうこんちゅうや)、夙夜(しよくや)、夙夜(しよくや)、晨夜(しんや)、一日一夜(ひとひとよ)、

今回は「夜」の字を含む時間名詞の調査であるため、事態存続の時間量も当然のごとく夜の間の時間量のみを表わすのではないかという予想をしていたが、それに反して、まる一日を表わす時間名詞もあることが分かった。特に「日と夜」や「昼と夜」の対照的な意味を持つ言葉の組み合わせで一日の意味を表わすものと、「夙夜(しよくや)、夙夜(しよくや)」のように「夙」が副詞的に「朝はやく、朝はやくから<sup>95)</sup>」という意味と「夜」の組合わせで一日中という意味を成しているもの、または、直接的な「朝」という漢字が入っているわけではないが、「朝」という意味を持つ「晨」と「夜」との組合わせで一日中という意味を成しているものもある。

「夜通し、一晚中」を表わす時間名詞は45語のうち、35語を占めており、そのなかでも「夜夜一夜」と「夜一夜」、「一夜」がかなりの数を占めていることが分かる。もともと仁田(2002)では事態存続の時間量を表わすものなかには「長い間」のような「存続量の<sup>大</sup>」を表わすものや「当分」のように「存続量の中程度」を表わすもの、「一時的に」のような「存続量の<sup>少</sup>」を表わすもの、さらに「一瞬」のように「存続量の<sup>極少</sup>」を表わすものなど、細かく下位分類したものがあがるが、今回抽出された「夜通し、一晚中」という意味を持つ時間名詞は存続量が長いのか短いのかという時間的長さによって分類できるものではなく、一日のうちの半分ほどの存続量を表わす時間名詞だと言える。

95) 『学研漢和大字典』p.298 参照

### 3.8 限定的な時間を表わす時間名詞

「限定的な時間を表わす時間名詞」とは、たとえば「月夜」は「月の出ている夜」を表わす言葉であるが、「月夜」は一日のうち循環的にやってくるものではなく、「月が出ている」という限られた条件がなければ成立しない言葉である。また、「七夜」は毎日来る夜を表わすのではなく、七日間の夜のみを表わす期間の限られた言葉である。このように「循環性」や「周期性」を持たず、特別なある性質を持った夜や、時間性の限られた時間名詞のことを言う。今回の調査では計87語が抽出され、「循環型」に続く二番目に多かった時間名詞である。抽出された時間名詞は以下の通りである。

〈表7〉限定的な時間を表わす時間名詞

間夜(あいだよ)<sup>96</sup>、数多夜(あまたよ)<sup>97</sup>、雨夜(あまよ)、惜夜(あたらよ)<sup>98</sup>、霰月夜(あられづきよ)<sup>99</sup>、有明月夜(ありあけづきよ)、有明月夜(ありあけづくよ)、暗夜・闇夜(あんや)、五百夜(いおよ)、幾千夜(いくちよ)、幾夜(いくよ)、一七夜(いちしちや)<sup>100</sup>、薄月夜(うすづきよ)、卯花月夜(うのはなづきよ)、卯花月夜(うのはなづくよ)、雨夜(うや)、鳥夜(うや)<sup>101</sup>、永夜(えいや)、朧月夜(おぼろづきよ)、朧月夜(おぼろづくよ)、朧夜(おぼろよ)、寒夜(かんや)、九夜(きゅうや)<sup>102</sup>、空夜(くうや)<sup>103</sup>、雲夜(くもよ)、曇夜(くもりよ)、月夜(げつや)、玄夜(げんや)<sup>104</sup>、空夜(こうや)<sup>105</sup>、黑夜(こくや)、異夜(ことよ)、異夜(ことよさ)<sup>106</sup>、桜月夜(さくらづきよ)、桜月夜(さくらづくよ)、寒夜(さむよ)、三夜(さんや)、山夜(さんや)、七夜(しちや)<sup>107</sup>、霜夜(しもよ)、初夜(しょや)、初夜(そや)、白月夜(しろつきよ)、星夜(せいや)、清夜(せいや)、晴夜(せいや)、静夜(せいや)、雪夜(せつや)、千夜(せんや)、霜夜(そうや)、速夜・大夜・太夜・迢夜(たいや)<sup>108</sup>、短夜(たんや)、千夜(ちよ)、長夜(じょうや)、長夜(ちょうや)、直夜(ちよくや)<sup>109</sup>、月夜(つきよ)、月夜(つくよ)、照夜(てりや)<sup>110</sup>、独夜(どくや)<sup>111</sup>、長夜(ながよ)、七夜(ななよ)<sup>112</sup>、熱帯夜(ねったいや)、白夜(はくや)、白夜(はくよ)<sup>113</sup>、初月夜(はつづきよ)<sup>114</sup>、風曉雨夜(ふうぎょうや)<sup>115</sup>、二七夜(ふたしちや)<sup>116</sup>、二夜(ふたよ)、星月夜(ほしづきよ)、星月夜(ほしづくよ)、短夜(みじかよ)、百夜(ももよ)、八千夜(やちよ)、闇夜(やみよ)、夕月夜(ゆうづくよ)、夕月夜(ゆうづきよ)<sup>117</sup>、雪月夜(ゆきづきよ)、雪夜(ゆきよ)、弓張月夜(ゆみはりづきよ)、宵月夜(よいづきよ)、夜夜(よるよる)、良夜(りょうや)、涼夜(りょうや)、朗夜(ろうや)<sup>118</sup>、朧夜(ろうや)<sup>119</sup>、六夜(ろくや)<sup>120</sup>、幾夜(いくよさ)、一兩夜(いちりょうや)、忌夜行日(きやぎょうじつ)<sup>121</sup>、月夜(つきよ)ざし<sup>122</sup>、徹夜明(てつやあけ)、百鬼夜行日(ひゃっきやぎょうにち)<sup>123</sup>、夜食時(やしよくどき)、夜食時分(やしよくじぶん)、夜来(やらい)

96) 男女が会う夜と次に会う夜との間、男女が会わないでへだてられた夜を表わす。

97) 幾夜の意味。

98) 「そのままむなしく過ごすには惜しい、価値のある夜」という意味を表わす。

99) 「月が照っていながら、急にばらばらとあられが降って来る夜」という意味を表わす。

100) 人の死後七日間の夜、または、七日目の夜を表わす。

101) 鳥は色が黒いというところから闇夜を表わす。

次に各時間名詞が使用されていた書物の年代別整理を試みることにする。結果は以下の通りである。

〈表8〉限定的な時間を表わす時間名詞の使用年代別分類

年代	時間名詞[書物名]
7世紀	なし
8世紀	間夜(あいだよ)[万葉集]、数多夜(あまたよ)[万葉集]、雨夜(あまよ)[万葉集]、惜夜(あたらよ)[万葉集]、五百夜(いおよ)[万葉集]、幾夜(いくよ)[古事記]、卯花月夜(うのはなづくよ)[万葉集]、月夜(げつや)[懐風藻]、霜夜(しもよ)[万葉集]、清夜(せいや)[懐風藻]、千夜(ちよ)[万葉集]、月夜(つくよ)[日本書紀]、長夜(ながよ)[万葉集]、七夜(ななよ)[万葉集]、二夜(ふたよ)[万葉集]、短夜(みじかよ)[万葉集]、百夜(ももよ)[万葉集]、闇夜(やみよ)[万葉集]、夕月夜(ゆうづくよ)[万葉集]
9世紀	寒夜(かんや)[元禄版本新撰万葉集]、長夜(ちょうや)[性霊集]、月夜(つきよ)[古今和歌集]、夜来(やらい)[経国集]

- 102) 「九夜」は「人が死んでから四九日間の忌日」の意味と「子供が生まれてから九日目」を表わす意味を持っている。
- 103) さびしい夜を表わす。
- 104) 暗い夜を表わす。
- 105) まだ月ののぼらない、暗い空の夜の意味。
- 106) 他日の夜を表わす。
- 107) 「七日間の夜」または「七日目の夜」を表わす。
- 108) 死去の次の日で火葬または、葬儀の前夜を表わし、さらに忌日の前夜の意味を持つ。
- 109) 宿直の夜の意味。
- 110) 盗人仲間の韻語として「月夜」の意味を持つ。
- 111) 独りで過ごす夜を表わす。
- 112) 七日間の夜の意味。
- 113) 白夜(はくよ)は盗人仲間の隠語で、「月夜」の意味を表わす。
- 114) 「初月夜(はつづきよ)」は「新月の出た夜」と「仲秋の月の夜」の二つの意味を持っている。
- 115) 風が樹木を揺るがすように吹く明け方と、雨が激しく屋根をたたく夜を表わす時間名詞。
- 116) 出産後14日目を表わす。
- 117) 「夕月夜(ゆうづくよ)」、「夕月夜(ゆうづきよ)」は陰暦一〇日頃までの月の出ている夜を表わす。
- 118) 良く晴れた明るい夜を表わす。
- 119) 朧月夜の意味。
- 120) 六つの夜、または、六日目の夜を表わす。
- 121) 百鬼夜行に際し、外出を避けて家にこもるべき日のことを言う。
- 122) 月の光が照っている夜を表わす。
- 123) 陰陽家で、百鬼の夜行する日として、夜間の外出を忌む日で、正月の子の日、二月の午の日、三月の巳の日、四月の戌の日、五月の未の日、六月の辰の日がこれに当たるといふ。

年代	時間名詞[書物名]
10世紀	永夜(えいや)[菅家文草]、曇夜(くもりよ)[蜻蛉日記]、異夜(ことよ)[蜻蛉日記]、初夜(そや)[蜻蛉日記]、静夜(せいや)[菅家文草]、短夜(たんや)[延喜式]、夜夜(よるよる)[宇津保物語]
11世紀	幾千夜(いくちよ)[拾遺和歌集]、朧月夜(おぼろづきよ)[源氏物語]、玄夜(げんや)[本朝文粹]、空夜(こうや)[和漢朗詠集]、雪夜(せつや)[江吏部集]、星月夜(ほしづきよ)[狭衣物語]、八千夜(やちよ)[伊勢物語]、良夜(りょうや)[本朝文粹]
12世紀	暗夜・闇夜(あんや)[今昔物語集]、雨夜(うや)[本朝無題詩]、黒夜(こくや)[右記]、霜夜(そうや)[宝物集]、忌夜行日(きやぎょうじつ)[今昔物語集]
13世紀	有明月夜(ありあけづくよ)[八雲御抄]、九夜(きゅうや)[海道記]、雲夜(くもよ)[土御門院集]、雪夜(ゆきよ)[壬二集]、涼夜(りょうや)[正法眼蔵]、百鬼夜行日(ひゃっきやぎょうにち)[拾芥抄]
14世紀	朧夜(おぼろよ)[玉葉和歌集]、空夜(くうや)[平家物語]、晴夜(せいや)[源平盛衰記]、逮夜・大夜・太夜(たいや)[瑩山清規]、六夜(ろくや)[曾我物語]
15世紀	七夜(しちや)[車屋本謡曲・弓八幡]
16世紀	なし
17世紀	一七夜(いちしちや)[浄瑠璃・山本版出世景清]、薄月夜(うすづきよ)[俳諧・犬子集]、白月夜(しろつきよ)[俳諧・皮籠摺]、千夜(せんや)[日葡辞書]、月夜(つきよ)[俳諧・武蔵曲]、初月夜(はつづきよ)[俳諧・猿蓑]、二七夜(ふたしちや)[京童跡追]、宵月夜(よいづきよ)[日葡辞書]、一両夜(いちりょうや)[中尾源左衛門・浜市右衛門宛芭蕉書簡]、月夜(つきよ)ざし[俳諧・猿蓑]
18世紀	霰月夜(あられづきよ)[俳諧・鶴のあゆみ]、三夜(さんや)[洒落本・売花新駅]、山夜(さんや)[浮世草子・御前義経記]、独夜(どくや)[鳳鳴館詩集]、夕月夜(ゆうづきよ)[書言字考節用集]、雪月夜(ゆきづきよ)[俳諧・俳諧古選]、弓張月夜(ゆみはりづきよ)[浮世草子・庭訓染匂車]、朗夜(ろうや)[蕪村自画讃・月夜の卯兵衛]、幾夜(いくよさ)[歌舞伎・幼稚子敵討]、夜食時分(やしよくじぶん)[咄本・笑長者]
19世紀	桜月夜(さくらづきよ)[新俳句]、直夜(ちよくや)[布令字弁]、風曉雨夜(ふうぎょうや)[松蘿玉液]、夜食時(やしよくどき)[俳諧・蕪村遺稿]
20世紀	初夜(しょや)[新男女百景]、星夜(せいや)[思出の記]、白夜(はくや)[桐の花]、徹夜明(てつやあけ)[猟銃]
年代不明	有明月夜(ありあけづきよ)、卯花月夜(うのはなづきよ)、烏夜(うや)、朧月夜(おぼろづくよ)、桜月夜(さくらづくよ)、寒夜(さむよ)、長夜(じょうや)、照夜(てりや)、十日夜(とおかや)、十日夜(とうかんや)、熱帯夜(ねつたいや)、白夜(はくよ)、星月夜(ほしづくよ)、朧夜(ろうや)、一夜交(ひとよませ)

今回の調査で7世紀や16世紀には限定的な時間を表わす時間名詞は出ておらず、また、8世紀に使われるようになった時間名詞が他の時期よりも圧倒的に多く、19語であった。そのなかでも現代でも使われているのは「闇夜」で、かなり歴史の古い時間名詞であると言える。

今回の調査で時間名詞が持っている意味によって同じ言葉でも使用された時期が違う時間名詞があることが分かった。たとえば、「初夜」の場合を見ると、「午後八時から九時ごろ」という意味では9世紀に使われているが、「誕生日の当日」という意味では15世紀に使われており、また、「夕方から夜半まで」の意味では17世紀、そして「新婚の夫婦が初めて寢床を共にする夜」の意味では20世紀に使われており、現在よく使われている「初夜」は比較的歴史の浅い言葉であることが分かる。それ以外に「月夜」の場合も「月の明るい夜」の意味では10世紀に使われているが、「秋の明月の夜」の意味では17世紀に使われていたり、「良夜」においては「月の明るく美しい夜」の意味では11世紀に使われ、「深夜」の意味では18世紀に使われている。

「逮夜・大夜・太夜・迨夜」四つの漢字表記を持つ「たいや」の「逮」と「迨」はもともと「およぶ」という意味から、「翌日の火葬におよぶ前夜」という意味を持っている。また、辞書上では四つの漢字のみで表記されているが、20世紀に書かれた「硝子戸の中」では「葬式も済み、待夜(タイヤ)も済んで、まづ一片付といふ所へ」のように「待」が使われている場合もある。

次に、抽出した「限定的な時間を表わす時間名詞」が持っている時間的性質を分析してさらに時間性による下位分類を行うことにする。

〈表9〉限定的な時間を表わす時間名詞の性質別下位分類

性質	時間名詞
ある特別な性質を持っている夜や夜明を表わすもの	雨夜(あまよ)、惜夜(あたらよ)、霰月夜(あられづきよ)、有明月夜(ありあけづきよ)、有明月夜(ありあけづくよ)、暗夜・闇夜(あんや)、薄月夜(うすづきよ)、卯花月夜(うのはなづきよ)、卯花月夜(うのはなづくよ)、雨夜(うや)、烏夜(うや)、永夜(えいや)、朧月夜(おぼろづきよ)、朧月夜(おぼろづくよ)、朧夜(おぼろよ)、寒夜(かんや)、空夜(くうや)、雲夜(くもよ)、曇夜(くもりよ)、月夜(げつや)、玄夜(げんや)、空夜(こうや)、黒夜(こくや)、桜月夜(さくらづきよ)、桜月夜(さくらづくよ)、寒夜(さむよ)、山夜(さんや)、霜夜(しもよ)、初夜(しよや)、初夜(そや)、白月夜(しろつきよ)、星夜(せいや)、清夜(せいや)、晴夜(せいや)、静夜(せいや)、雪夜(せつや)、短夜(たんや)、長夜(じょうや)、長夜(ちょうや)、直夜(ちよくや)、月夜(つきよ)、月夜(つくよ)、照夜(てりや)、独夜(どくや)、長夜(ながよ)、熱帯夜(ねったいや)、白夜(はくや)、白夜(はくよ)、初月夜(はつづきよ)、風曉雨夜(ふうぎょううや)、星月夜(ほしづきよ)、星月夜(ほしづくよ)、短夜(みじかよ)、闇夜(やみよ)、夕月夜(ゆうづくよ)、夕月夜(ゆうづきよ)、雪月夜(ゆきづきよ)、雪夜(ゆきよ)、弓張月夜(ゆみはりづきよ)、宵月夜(よいづきよ)、良夜(りょうや)、涼夜(りょうや)、朗夜(ろうや)、朧夜(ろうや)、月夜(つきよ)ざし、徹夜明(てつやあけ)、夜食時(やしよくどき)、夜食時分(やしよくじぶん)
連続した夜を表わしているもの	間夜(あいだよ)、七夜(しちや)、七夜(ななよ)、夜夜(よるよる) <sup>124)</sup>
複数の夜を表わしているもの	数多夜(あまたよ)、五百夜(いおよ)、幾千夜(いくちよ)、幾夜(いくよ)、千夜(せんや)、千夜(ちよ)、七夜(ななよ)、二夜(ふたよ)、百夜(ももよ)、八千夜(やちよ)、夜夜(よるよる)、六夜(ろくや) <sup>125)</sup> 、幾夜(いくよさ)、一両夜(いちりょうや)、夜来(やらい)
ある出来事の数日間後の夜を表わしているもの	一七夜(いちしちや)、三夜(さんや)、七夜(しちや)、六夜(ろくや)
ある出来事の前夜を表わしているもの	逮夜・大夜・太夜・迨夜(たいや)
夜の意味で使われていないもの	忌夜行日(きやぎょうじつ)、百鬼夜行日(ひゃつきやぎょうにち)、九夜(きゅうや)、二七夜(ふたしちや)
その他	異夜(ことよ)、異夜(ことよさ)

124) 夜夜(よるよる)は「二晩以上の夜」と「毎夜」の意味があるため、「複数の夜」と「連続した夜」とに分けた。

125) 「六夜(ろくや)は「六つの夜」と「六日目の夜」の意味があるため、「複数の夜」と「ある出来事の数日間後の夜を表わしているもの」とに分けた。

<表9>を見て分かるように「ある特別な性質を持っている夜や夜明を表わすもの」が計69語とかなり多いことが分かる。「ある特別な性質を持っている夜や夜明を表わすもの」のなかには「熱帯夜」、「桜月夜」のように間接的に季節を表わす言葉との組み合わせのものもあれば、「弓張月夜」や「宵月夜」のように夜にしか現れない現象と組み合わせているもの、「惜夜」や「空夜」のように該当時間名詞の使用者の感情を入れた夜を表わすもの、そして「寒夜」、「涼夜」のように気温を表わす言葉との組み合わせのもの、「雨夜」、「曇夜」のように天気を表わす言葉との組み合わせのもの、さらに「長夜」、「短夜」のように夜の長さを表わす言葉との組み合わせなど、さまざまな形で夜の性質を表わしていることが分かる。

「連続の夜を表わしているもの」には「間夜」があるが、「男女が会わないでへだてられた夜」という意味で、男女が会えない期間は場合によってはまちまちであろうが、その会えない期間の夜ということで、連続性を持っている時間名詞である。「七夜」は二つの性質を持っており、一つは「七日間の夜」で連続性を持っているものと、「七日目の夜」という、ある出来事の七日目にあたる夜を表わす意味も持っている。また、「七夜(ななよ)」は「七日間の夜」という意味では「七夜(しちや)」と同じであるが、「数多くの夜」の意味を持っているため、「複数の夜を表わしているもの」のなかにも入れた。また、「六夜」も「六つの夜」という意味では複数の夜を表わしているが、「六日目の夜」という意味では「ある出来事の数日後の夜」を表わしている。

「ある出来事の数日後の夜を表わすもの」では「七夜」、「六夜」のように具体的な出来事には触れていないが何かを基準にした七日目の夜や六日目の夜を表わすものと、「一七夜(いちしちや)」のように「人の死後七日目の夜」を表わしたり、「三夜」のように「新婚三日目の夜」を表わたりするものもある。また、「夜の意味で使われていないもの」の中には「九夜」や「二七夜」があるが、「九夜」は「人が死んでから49日目の忌日」を表わしており、夜を表わしているわけではなく、「二七夜」も「出産後14日目」を表わすのみで夜という意味は入っていない。

## 4. おわりに

今回の調査で『日本国語大辞典第二版』第一巻から第十三巻から抽出された時間名詞は性質別に見ると「発話時を含む時間帯を表わす時間名詞」は9語、「発話時以前を表わす時間名詞」は11語、「不定時を含む時間帯を表わす時間名詞」は10語、「不定時以前を表わす時間名

詞は3語、「不定時以後を表わす時間名詞」は7語、「循環型の時間名詞」は134語、「事態存続の時間量を表わす時間名詞」は45語、「限定的な時間を表わす時間名詞」は87語であった。また、今回の調査では「発話時以後」を表わす時間名詞は抽出されなかった。調査した結果をまとめると以下の通りとなる。

1. 「発話時以前を表わす時間名詞」では「夜前、一昨昨夜、一昨夜、昨夜(きす)、昨夜(きそ)、昨夜(よべ)、昨夜(よんべ)、昨夜(さくや)」は単に発話時以前のみを表わしているのに対し、「当夜」や「来夜」は「発話時を含む時間帯」の性質と「不定時を含む時間帯」の性質の両方を持つ時間名詞であることが分かった。
2. 「不定時を含む時間帯を表わす時間名詞」では、抽出された「初夜(しょや)」と「初夜(そや)」は「現在の午後八時から九時ごろ」を表わす意味と、単に「夕方から夜半まで」を表わす意味、「誕生日の当日」を表わす意味、そして「新婚の夫婦が初めて寝床をともにする夜」を表わす意味と4つの意味を持ち合わせており、時間的性質別に見ると「循環型」、「不定時を含む時間帯」、「限定的な時間」の三つの性質を同時に持っていることが分かった。
3. 「不定時以後を表わす時間名詞」では「次夜」、「明夜」、「翌夜」、「一夜掛」は単なる不定時以後を表わす時間名詞であったのに対し、「隔夜」、「一夜はざめ」、「一夜交」は「循環型」と「不定時以後」を表わす二つの性質を持っていることが分かった。
4. 「循環型」の性質を持つ時間名詞は134語ともっとも多く抽出され、さらに時間的の性質別に「日循環型」、「年循環型」、「月循環型+日循環型」、「季節循環型+日循環型」、「年循環型+日循環型」の5種類の下位分類をすることができた。そのなかでも「日循環型」が107語ともっとも多かった。また、ほとんどの循環型の時間名詞は一定の時間帯を指す線として表わされるものであったが、そのなかでも「子夜」は真夜中の12時ごろを指し、また「午夜」は午前2時頃を指す、という時間的線ではなく、点として表わされる時間名詞も存在することが分かった。
5. 「事態存続の時間量を表わす時間名詞」では45語が抽出されたが、時間的性質別に見ると「夜通し、一晚中」と「一日、24時間」の2種類の性質に分類できた。さらに、仁田が分類した「存続量の極少、少、中、大」といった時間的長さをもって分類できるものではなく、一日のうちの半分、または丸一日の時間量を表わす時間名詞であるということが分かった。

6. 「限定的な時間を表わす時間名詞」は87語であったが、性質別には「ある特別な性質を持っている夜や夜明をあらわすもの」、「連続した夜をあらわしているもの」、「複数の夜を表わしているもの」、「ある出来事の数日間後の夜を表わしているもの」、「ある出来事の数日間後の夜を表わしているもの」、「ある出来事の前夜を表わしているもの」、「夜の意味で使われていないもの」の6種類の下位分類をすることができた。なかでも、「九夜」は「人が死んでから49日目の忌日」を、「二七夜」は「出産後14日目」を表わすのみで夜という漢字が入っているにもかかわらず「夜」の意味のない時間名詞があるということが分かった。
7. 現代で使われている時間名詞のなかでは、「最近」や「ちょっと」、「しばらく」のように述語によって、時間名詞の持つ時間的な幅が変わったりするものもあるが、ほとんどの時間名詞は時間的な幅が変わったとしても持っている時間的な性質自体は一つであるに対し、今回の調査でわかったことは夜の入った時間名詞は2つや3つの全く異った時間的な性質を同時に持つものも多数存在し、また、「初夜(しょや)」のように「午後八時から九時ごろ」という意味では9世紀に使われているが、「誕生日の当日」という意味では15世紀に、また「夕方から夜半まで」の意味では17世紀、そして「新婚の夫婦が初めて寝床を共にする夜」の意味では20世紀に使われているというように時間名詞の持つ意味によって同じ時間名詞であっても使用されていた時期が違うということも分かった。

今回は「夜」という語を含む時間名詞のみの調査となってしまう、「朝」や「昼」、「晩」などの語を含む調査にまでは至らなかった。それを今後の課題としていきたい。

### 【参考文献】

- 金田一京助外5人(2003)『新明解国語辞典』三省堂  
 小学館国語辞典編集部(1972)『日本国語大辞典第二版 第一巻-第十三巻』小学館  
 藤堂明保編(1978)『学研漢和大辞典』学習研究社  
 仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』くろしお出版 pp.201-258  
 朴炳植(2001)『ヤマト言葉語源辞典』BANARY出版  
 前田富禎(2005)『日本語語源大辞典』小学館

### 【参考サイト】

- 青空文庫 <http://www.aozora.gr.jp/>  
 気象庁 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

ジャパンナレッジパーソナル <http://japanknowledge.com/personal/>

正規表現檢索窓FOR日本語コーパス言語学 <http://www.nihon.co.kr/rxsearch.html>

---

논문투고일 : 2015년 06월 10일  
심사개시일 : 2015년 06월 20일  
1차 수정일 : 2015년 07월 08일  
2차 수정일 : 2015년 07월 14일  
게재확정일 : 2015년 07월 20일

---

---

 <要旨>
 

---

## 時間名詞に関する一考察

## - 「夜」を中心として -

本研究は『日本国語大辞典』第一巻から第十三巻から「夜」の入った時間名詞を抽出し、時間的性質別に分類し、分析を行った。

その結果、「発話時を含む時間帯を表わす時間名詞」は5語、「発話時以前を表わす時間名詞」は11語、「不定時を含む時間帯を表わす時間名詞」は10語、「不定時以前を表わす時間名詞」は3語、「不定時以後を表わす時間名詞」は7語、「循環型の時間名詞」は134語、「事態存続の時間量を表わす時間名詞」は45語、「限定的な時間を表わす時間名詞」は87語であった。

「夜」の入った時間名詞であるにもかかわらず、「九夜(きゅうや)」や「二七夜(ふたしちや)」のように夜の意味のない時間名詞が存在したり、「初夜(しょや)」や「初夜(そや)」のように一つの言葉で時間的性質を三つ持っている時間名詞もあり、さらに、時間名詞の持つ意味によって使われていた時代が各々異っている時間名詞が多数存在することが分かった。

## A Consideration on Japanese Temporal Nouns

## - Focusing on 'YORU' -

This study has extracted Japanese temporal nouns that contain the Chinese character of '夜(YORU=night)' from Japanese Language Dictionary Vols. 1-13, then they were classified by their temporal nature for the purpose of our analysis.

The results show that "the temporal nouns indicating the time zone which includes the point of utterance" are **nine**; "those indicating the time zone before the point of utterance" are eleven; "The temporal nouns indicating the time zone that includes the indefinite time" are **ten**; "those indicating the time zone before the indefinite time" are three; and "those indicating the time zone after the indefinite time" are seven. And, "cyclical form of the temporal nouns" are **134**; "those indicating the time amount during the continuance of situation" are 45; and "those representing determinative time" are 87.

There are temporal nouns such as "kyuya" or "futashichiya", which consist of the Chinese character "YORU", but they do not have meaning of 'night'. The temporal nouns such as "shoya" and "soya" have three temporal characteristics in one noun. Furthermore, the study has found that there are many temporal nouns whose conveyed meaning was different depending on the era in which they were used.